日本語を話す仲間と　日本語で学ぶ補習校

ニューヨーク
補習授業校
学校だより

補習校協育

令和８年（2026年）１月８日　　第３４号　　校長 小島　昇

新しい年の始まり 今年もよろしくお願いします

新年明けましておめでとうございます。新しい年、令和８年、２０２６年の始まりです。今年もニューヨーク補習授業校でがんばる子どもたち、そして保護者、教職員、関係する皆様にたくさんの幸が届くようにお祈り申し上げます。

まずは、今日も学校だより「補習校協育」をお読みくださりありがとうございます。現在は紙での配布をしていませんので、学校からのお知らせの中から選んで開いたり、学校のホームページにアクセスして開いたりといったアクションを起こさなければ学校だよりにはたどり着けません。ですから今この文章をお読みくださっている皆さんには、心より感謝申し上げます。学校だよりと学校インスタグラムで発信することにより、学校を知っていただけるように努めてまいりますので引き続きよろしくお願いいたします。

ニューヨーク補習授業校に求めることは…？

新型コロナウイルス感染症が流行する前には及びませんが、おかげさまで在籍者数は昨年度よりも増加してきています。保護者の皆様は何を期待して補習授業校に入園・入学させようとしているのでしょうか。入学の際にご提出いただく調査書には、どんなことを期待して入園・入学させようとしていらっしゃるかを記述していただく欄があります。この欄に目を通すと、保護者の期待や願いが多様化してきていることを感じます。お子さんの学年、日本への帰国見込によっても、学校への期待は異なる可能性があります。「日本の文化に興味をもってもらいたい」「国語、算数の学力維持」「日本の学校行事の体験」「日本語での集団生活」「日本語や日本文化にふれる」「日本語の読み書きを習得する」「安心してたくさん日本語を話す友だちをつくる」「日本人のアイデンティティをもたせる」「日本に帰国することを見据えて、学習指導要領に沿った勉強に慣れてほしい」…学校としても大切にしていきたいと考えている内容が並び、一定の共通した方向性は確認できます。しかし、一人の保護者の立場で考えたとき、それぞれの内容について期待する重みは異なると想像できます。日本国内の小中学校及び高等学校への編入、進学の際に適応できる力を養うことがもともとの学校の設立趣旨ですが、時代の変化とともに柔軟に考えていく時期に差し掛かっていると感じます。できるだけ多くの期待にお応えできるように、今年も「日本語を話す仲間と　日本語で学ぶ土曜日」の充実に努めてまいります。